俳諧七部集

第拾四號
俳發部
之冊ノ内
鷺池藏書

中村俊定文庫
文庫 18
686
1

陳設古器圖

曙うんとんくの戸(クキ)あけぬく
勢田わたりゆうね渡し舟さいら
くさわゆく井わたりをしてはせ
いとのうなわ重五りなわをもる
竹墻かとちるさよふちうわを
ゆきをもゆ出ぬる

荷兮

二月十八日

まちくやうくの伊勢まいり
ながく連　重五
ちる中馬
山ふもと月一ぱいよ餞(エン)たく　雨桐
鎧なぐれ史ふるあるも　李風
志ふ風ようくゆハ函なく　昌圭
くるもゆ仲の岩ふくうて　執筆

須ウ寺よ行の帷子脱く　重五
をすく〻ふく〻笛を載く　荷兮
文王のゝ〻やしまを出はて　李凡
雨の手すり角のなさ草　雨桐
肌えと一度八背をなく〻ゝ　荷兮
頃城乳をうくゝと晨の　昌圭
青ゝゝ境よ人の紅移ゝ　雨桐
わゝゝとの神輿うく里　重五

鳥居ゝゝ半道真の砂行く　昌圭
花よ長男入の帝蔦わぐふゝ　李凡
御ゝ陽がゝらよ鞠ゝよや　重五
入ゝ日ゝ蝶いかぐゝ　荷兮
二
ゝゝゝ麥かぐ家よ連行く　李凡
う懐ゝ梓きゝゝ　雨桐
黒髪をたぐゝ　荷兮
いゝゝき五位の針　昌圭

打ちまよ宅司の門ちかく
くぐれる跡もあるとあけあで　兩相
朝朗豆腐を蒸よう〜まけう　重五
念仏さばきて秋のくれ也　昌圭
穂蓼生て蔵を住めて俺ゑて　芦風
ふ名を掲の名ようなる月　重五
傘の泊付ふなる兩入昏よ　荷兮
幼蝶ふく知るびくく　芦風
　　白相

かぐるあるの八ツよ迄　荷兮
均親ひけを二人して行を　昌圭
せよあるる局ゑ年うて　兩相
記念ようる坂の菅畑　重五
いくまと花と行たいてびく　昌圭
才も兄を多ようちゆく　芦風

三月廿日四水亭にて

且藁

[illegible]坂や畑の山の八重さくら　野水

[illegible]　荷兮

[illegible]張節借なるべし袴忘

口もとぐへ清らなるべし　越人

[illegible]たれ狂の酒の破　羽笠

貴の[illegible]出るかな月　執筆

ウ

笠ゆさ（ウヅミ）を奉るとはくり　野水
東わが垣よりはくとく　其柔
表町ゆばくこ人髪剃（ナミソラ）ん　越人
暁いうち車ゆくそで　荷兮
鰐頭ゆく大津の渡よりの　其薫
何やらん乳母の声　迦人
踏石ゆぐらと蛙ちら　羽笠
萩ゆたん百日のくら　野水

ニ

軍人ゆ蓆を絶を妹の　越人
月なさ浪ゆ雲石（ヲモシ）を掛　羽笠
ちろ虫ゆ根ゆ入鮎　野水
汎をゆ春陽の山　其薫
のもやゆ紫ゆ伊勢物　越人
四位のえ代ゆ眉の図　荷兮
物ゆ軍ゆ中ハ行ひきよ　羽笠
名ゆ栗とぐ上ケ　野水

大年を念佛とあつ[illegible]　喜春酒棚　昌蕚

[illegible]　無我よりも陳や　越人

[illegible]　[illegible]　荷兮

[illegible]　日[illegible]　[illegible]　羽笠

一[illegible]　宿を馬[illegible]　四水

こを魂[illegible]　月　昌蕚

陽炎（ケロウ）の[illegible]　越人

[illegible]　荷兮

田（ウ）を[illegible]　羽笠

力の[illegible]　四水

蓮（ハスナミ）や[illegible]　昌蕚

[illegible]　越人

[illegible]　荷兮

[illegible]　羽笠

三月十六日　且藁り田家より

四水

蛙のこゑゆゝしき森にこもれる

額よりしたゝる雨の玉すだれ　且藁

蕨烹て岩木の臭ふ宿りかな　越人

まづくしく人をもてなす馬の餌　荷兮

さくらふる渡しの舟の月新り　冬文

芦の穂を招く傘の端　輒筆

ウ

磯ぎよ旅館晩の信の集りく　且藁

岩のあひよりも蔵らゆる星　四水

面の月も瓶焼やん煙られ　荷兮

ひぐらきるも旅の一ほよ　越人

尋ぬる坊えい住まび捜ゆて　四水

解るをん杖むをる私　冬文

今宵い更ぬるとやうを

月十九日　荷兮室にて

咲ぬ日をの菊よりも白露で　越人

秋の和ぬよりる　頃　且藁

初ぬ紅色よりげり火をけな　冬文

別の月よりなるわるを　荷兮

枯ぬ花四の宮ちい唐輪して　且藁

ゑ伸くく通のをもひけり　四水

二

永き日やとゝ幻とけるる　荷兮

貧のよ　年をる五月雨中　越人

紹鷗り飄（フヘ）るうちて来ハ行く　四水
連哥入もしてうるおいそぐし　そ文
瀧臺り紫押まぎて吾こな　越人
岩苔うちの竜よさぎ〳〵も　基素
ひさかうる泉（キヌ）ちくりく世の中る　そ文
筵二枚もむろき家　竜　越人
朝毎入露あられさに変化ん　基素
嘉うちを送るきれく入月　四水

ほのなき蛾の自舟よ網入よ　竜
る羽入漂わらどら多ひ　そ文
ウ
あもあざこね花ふ人　四水
作〳〵一句章入者あり　夢
ふまの水波よ立起く　越人
餅を喰はくいと居り代　基素
山々花所のうら侍ぶ方よ　そ文
そまぶてぶてぶぎ雀ハ　荷分

追加

三月十九日舟泉亭　越人

山人あるじ　丹泉

蝶もすがらの昔ゝ　聽雪

きゝなれや餅酒をくき雪ありて　蟲髭

行幸のよる洗ふ玉器　荷兮

朔日を鷹ゝ鍛冶のいとく　執筆

月やさそ入りもあるを

春

昌陸の松たゝなる御代のまに　利重

元日の本すゝ読馬足伸し　重五

初春の遠里牛れそめ日か　昌圭

たゝすゝ海をぐすゝ麥畑　柵桐

門々松苔菜園の雪さむし　舟泉

鯉の音水に入間くあり　羽笠

舟〳〵の小松ゝ雪すゝ　且藁

暖入て頻牡丹咲てひきけり　杜國

掃て元日里の賑ひ哉　犀夕

星ゝかゝるまぬえ鳴る霧の色　春霞

ゆゝしき小牡鹿ぞ牛の夢　聽雪

朝日二分柳の動く白ひかり　前分

足ゆゝしき小牡鹿ぞ牛の夢　同

芹摘て こけく泥なき墨ぶ　其角

のゝ道ゝ分行へ行て

みゝ人もゝ白雲いかゝ

古池や蛙飛こむ水の音　芭蕉

傘張の賑り胡蝶の飛ぶ　重五

山や花燈根の亀洞　亀洞

花よりも雲ぞ真ぶ　越人

春野吟

足跡を梅を曲る菴二月　杜國

禁寺かくれぬ雪ぞ　光風

榎木まて探乃遅きあがれ　荷兮

餞別

藤乃花さくらの花に別ぶ　越人

山畑乃茶つをさくらの多かれ　重五

蚊ひなりよ森の底半で　同

夏

なつまけそ乃山鳥尾ハ長し　九白

新公さ由乃焼くある夜ふ　李風

かつこ鳥の首ふ乃一星　嵐越人

うもとさくらかれ木の下　杜國

乃竹乃こをたゝる雀　亀洞

傘をそまで寒ふ乗ふ　舟泉

武蔵坊をとゝる

とじかまやさくらの玄川　高露

乗ふ望ゆかなく

馬くもかくれて月　聽雲

老聃曰知足之足常足

子なを雜水わつて蓼食武　越人

蓬戸の微雨こほるて鳴蚊　柳雨

けしきなるなつむる中ゑ　虚文

萱草ハ遠き花の色　荷今

蓮池のよるつゝ侍ん　仝

暁の夜佳夢遠きかな　昌圭

夏川の音よ宿ゝ書路哉　重五

辭喻品三界無安猶如火宅

といふを

六月の汗ぬくひ居ん臺ん　越人

秋

宵戸ゆ細なひ笑みくるを　且藁

貧家の山家

玉まつ柱ゝむ夕ん　越人

[illegible]と一座入る夜哉　雨桐

きわ〳〵人をやとひ月見哉　芭蕉

山寺や月見せうとの月夜哉　越人

瓦ぶき家も西日の秋の月　翠水

八湯をかせる屋敷の絵とて

具足とく頼の夜ぶし月見哉　仝

待恋

[illegible]を[illegible]ん[illegible]ん　荷兮

閑居増戀

秋ひとり琴柱とぢて寝る夜哉　荷兮

[illegible]　舟泉

冬

馬ぬすと牛ハ[illegible]村ぎれ　杜國

芭蕉[illegible]を[illegible]　大垣住

[illegible]　如行

[illegible]　昌碧

馬をうしなひなげしの雪のあけぼの　芭蕉

行燈の煤とぶ雪ぞ冬ごもり　越人

芭蕉葉をおりてくべる炉の

このしたの氷ゆるがぬおもひかな　杜國

隱せるかたちなる宮をたづねて

わすれきぬ笠ひとつ残る竜田　荷兮

貞享三丙寅年仲秋下浣

笠ぬぎ途のふるさとあらん民家哉

ものわびく農あるじに長生きすり

俳諧ずきなる人家さくの行

おほうち寺むの狂句也去来

國てらすらん冬ふ國おなし

出雲中作る

粗白こかすに身を竹ふる仕るべし　芭蕉

ぎりもとゞ風のこの山茶花　野水

有明のうすく酒屋つくるとく　荷兮

うらに霧をまるふあのむく　重五

朝鮮のほそ道　ぎくさにあるべし　杜國

日落ちわく仁野くに米を刈　正平

わのんゑを盛るたとへ　野水
髪ながやとしやうの身のうと　芭蕉
いつわのつくと乳をあらはして　杜國
きくんめくてふとハてすくとなく　荷兮
新法（カケボウ）のあのつまし火を燒く　芭蕉
あるしをひんつきて虚家（カライエ）　杜國
四中行くこすの御蔵ろ　荷兮
寒くて引人ハちんちの形水

半ばこの杉を横ぎる月出て　杜國
とふあさうの花町ちかき　荷兮
二の尼くを濡れ出のさうさく　野水
燈をひとつとりて鼻こむ　芭蕉
のりあみ簾を遠新おもかる　杜國
いまそ恨さんをかりの声　荷兮
ぬすんの紀念の松ぬ吹おろく　芭蕉
出くて宗祇ほうを付し水　杜國

笠ぬぎて無理あるぬる小河面 荷弓
みそのゝ白ゆふかけし唐苔 野水
さらゝと碎けて人の骨うかぬ 杜國
烏賊ハ古代の国ぬけるる 重文
あるくよりぬ謎ゝとけ一新云 野水
秋水一升ゝ酒ゝ夜ゝ 芭蕉
白糸の雫白の坊ゝ自然ゝ 重辰
巾ゝ木槿ゝ琴琵琶ゝ 荷弓

うしの花ゝ西ゝ夕ゝ秋ゝ 芭蕉
算ゝ数の魚ゝ 杜国
わのゝのゝ西ゝ星ゝ 荷弓
うゝゝゝ月ゝ 野水
綾ゝ岩湯ゝ志賀の花濃ゝ 杜国
廊下ゝ藤のゝけゝ 重辰

おもふ人ゝも壮年
いまるとゝまを振袖

ゝの雪はたゝ之待ちてうゝる　埜水

雲ゝまゝとりゝる菊乃　食　杜國

野ゝ家問て芋ゝの葉の白ゝく　芭蕉

ゝゝゝ雨ゝ紙とゝまれゝゝ　荷兮

麻呂の月神ゝ鞨鼓を彩ゝ　重五

桃花笑ゝ貞徳の冨　正平

面影深草の里深草の里　杜國

奥のさけるまの桜只なるまてあり　芭蕉

床あるまく深草しなとなる雪　荷兮

孫さ白さけれ根このしわ　芭蕉

口わるとと癖ちるる地のうかよ　野水

明日そうるとまにくび蓮あるとし　市左

い三たく盃ら新たんら花　芭蕉

月無く蓮の花　牡丹　ぬす人　杜國

猪あるのかくあるやぶれ蓮あるく　市左

ちらしくかしたれ地蔵切町　荷兮

物ちるれ芋ちる蛾のたのちく　杜國

しのぶ海ちるるるもそのハ　ゆ平　野水

梯くこに鍋ちゆう海地のうの　市左

ちらしたとれたく家蝙ちあり筆　芭蕉

蓬あのく消えて俳れ蓬ちる　野水

三線かんん不彼のせき　人　市左

[illegible]

祈さもんくのさとて　七十　杜國

拳ハ[illegible]ハ[illegible]

[illegible]の傘（カサ）[illegible]

蓮池[illegible]

[illegible]

月[illegible]唐物の髪[illegible]

[illegible]臨[illegible]

秋[illegible]虚（カラ）[illegible]

[illegible]の實[illegible]

[illegible]

[illegible]芭蕉

[illegible]侍（ケ）の[illegible]の杜國

三千[illegible]鸚鵡[illegible]

[illegible]越の[illegible]

つえ衆ひく事僅く　中歩

ゆく春や月とも為す霧の子　杜國

こもりの蛙ひとり水のふつまく　重五

歯朶の葉ふを初狩人弦矢頃　野水

仏の山門をはらへ蕨ちる　芭蕉

馬糞掻(カク)ふて風のあとのすさ　荷兮

茶花陽者おゝむ時への蕾云莫(タンオヽ)　正平

[illegible]む娘の[illegible]て　[illegible]
燈籠もかけさせなくてちらばる　杜國
つゆ秋のすゆふかぬ　芭蕉
蕎麥さく〳〵青し　濃州（シカラキ）貢糸の縣　野水
名月夜双六うちの縣わり　杜國
糸買（カフ）みちにほやくまぶさく　芭蕉
志ぶふはのわきて雛を抱ける　野水
[illegible]婦の奥ふかんとす　芭蕉

すゝ紀まて淋しの水くらく行　芭蕉
佛食する奥解（ナト）主　杜國
縣もるとしんとの[illegible]と伊の秋く　芭蕉
又形（ゲン）莖　畠六　芭蕉
[illegible]鶴ふ[illegible]雀ちゆく　芭蕉
真昼の馬ふ[illegible]　野水
おのゝ[illegible]矢刻の鶴えんおのゝ　杜國
[illegible]屋[illegible]　芭蕉

捨しるを宗祇長さのふつる　時雨
晦日（ミソカ）をさむく力　賣る年　芋文
雪の和尚　国の笠ぬつりよ　荷
襟ゝ言雄の片袖をとく　文麦
あるゝ人と指て　指て呑ませ　芋文
芥子のなくて　なとゝ　杜国
三ヶ月の東を晴く　鐘の響　芭蕉
好潮のひく　琴のくとと　者野

京ゝ　なやうてとゝ　放る　杜国
拝ゝ　会仏　数　色つる　荷
のけすき　行燈　に起　野水
なゝ　ゝ　夜ゝ　弟引　芋文
ゝ　花たす　花　荷
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

なを波はしり火縄哉
ほとゝぎす
炭賣もものすさまじき思ひ兎
ひとり寝の軽石を鏡 磨 寒 荷兮
花棘馬骨の雪ふり吹の山 杜國
鶴りんりんと月うすの音 野水
この秋は何で酒をすまし 芭蕉
秋深し市ゝ振ぬる 羽笠

三年ニ満ニテ亡ル前ノ
フナルベシ

[illegible]川や胡麻千代象の徽を　荷兮
[illegible]の[illegible]なりの[illegible]　重辰
[illegible]布搗再[illegible]　野水
[illegible]三平　杜國
[illegible]鶯[illegible]離[illegible]　羽笠
[illegible]決[illegible]　曲水
門守の[illegible]に[illegible]　重又
血刀[illegible]身の[illegible]　荷兮

[illegible]して本御の[illegible]七月　杜國
[illegible]紙[illegible]　野水
[illegible]泣[illegible]の[illegible]と[illegible]　曲水
僧[illegible]の[illegible]数多[illegible]　呑舟
白[illegible]　荷兮
宜旨[illegible]叙を[illegible]　重辰
八十年を三[illegible]童母[illegible]　野水
[illegible]七夕の[illegible]　杜國

西行桂女の一曲をうたふ　羽笠

蘭の香ふかうて　ト木うつ音　芭蕉

梅が香をたづねて　賢なる女房　重文

釣瓶に栗を取られのふるの花　荷兮

そやわ春くれば　桜がさく正月　杜国

清く咲る梅　舟水

寅乃月　三月を報ぜんとて　芭蕉

ことしの春　京の地　羽笠

にのきにて　泥をたゝく人の像　荷兮

泥くさい海の　さゝらの水芹の根　重文

粥すゝる　あのつま　やさかこまわ　やもん

物干の下にて　鑓ふる　風　芭蕉

小ぶりなる　簾ちゝやうく　羽笠

物ゝ夏　夢を責るむる面　杜国

田家眺望

雲月や鶴（カウ）の行（ゆく）々あるひとて　荷兮

名残なれなるかすみ　芭蕉

樫檜山家の体をあれ業浪　重五

ひ業ぎるらしれ塩こあれて　杜國

青色の鳥見る月のうすく　羽笠

酌とる童（ワラハ）素切て　いく　埜水

秋のこゝろ蟬なき連歌いとのりて　芝蘭

淋しくもれる音ゆる寺　荷兮

麻もゝて椿の花の落る音　杜國

茶ゝ糸遊ながるゝ風の秀　亦又

雉追に烏帽子ぬ女又三　十　野水

庭下に木芽ぬるゝの落衣　芝蘭

ものゝ山橋ゝ流るゝ　荷兮

麻うゑもつふ奇の集　あむ　芝蘭

江を長く獨糸菴と世なれ拾く　亦又

東月出ゝ身をかくす影　杜國

ゝ衣第ゝ落花と共掛　芝蘭

篭輿ゆゝ夜木瓜の山あれ　野水

骨なくゝ泥ゝ潮ゝ月の　芝蘭

乞食法養とゝふ志の先　荷兮

泥のゝ屋ゝ鯉を拾ふ　杜國

所幸ゝ遊むぬ　亦又

[illegible]に[illegible]る[illegible]花小角豆の花[illegible]　[illegible]

[illegible]に炭團[illegible]く　白羽豆

[illegible]小坊主[illegible]　[illegible]

[illegible]のみ[illegible]る蓮[illegible]　[illegible]

[illegible]飯豆の[illegible]月の[illegible]　[illegible]

[illegible]風[illegible]　杜國

釣棚[illegible]屋根[illegible]行庇　[illegible]

豆腐つくりて母[illegible]喪[illegible]　入　[illegible]

之改[illegible]茅[illegible]　[illegible]

伏り[illegible]木幡の[illegible]　[illegible]

つつ[illegible]男猫[illegible]捨て　杜國

[illegible]の[illegible]雪[illegible]　[illegible]

小[illegible]の聖[illegible]　[illegible]

山茶花白[illegible]笠[illegible]　[illegible]

追加

いかにみよと難面うしをうつ霰　羽笠
樽火あかりあかるの松　荷兮
ちくさ刈下葉に螢をちらして　重五
檜笠こく京なる風川も能登　杜国
郷人蛤かいて月見　海　芭蕉
ひらりと橋をこえての岐阜山　埜水

江南老人珠璣家にひさこを道としてこれ
是を将のをのが酒を舟にして笑ける
あらし武ちて大樽に造りて江湖をわた
りしがいつる婦人画にも異ならず五にかさ
後なれ恵子にして用ることを納しら
につらくおほれとわるに睡てあや
まりてけさちるに瑞る醒てこるに
日月陽秋こそこのにして雪をあけ

加乃國なる郭公もこゝにたゞよふ船
おを吉野人とも乃ゝえうあるとて皆風雅
乃藻思をいつるとなりまた是いつれなる
やうこゝろなりて乾坤の外なることを出て
物のことを云く毎日はなをとりへ

元禄三六月　　越智　越人

花見

翁

木ぶをゆるゝ汁も鶯を搖この郷
西日乃とゝうれたゝさ天氣なり　珎碩
旅人乃風かさ切書ゝるく　曲水
たゝさも習ゝぬ生力ゝ鞘（ヒキヤク）　翁
月詣ゝ假ゝ内裏の司召　碩
粉印つくる松うちやわさ　水

鞍置る三歳駒と秋の暮　翁

名のみさまくて降る雨　碩

八辺に流れの湧湯ぬくもり　水

中も隠れぬ山伏　翁

行の事を唯一言云しらず　碩

かなしき命なるを高野乃ぬけて　水

掘出すの為の喰物と共に　翁

月乃光新乃雫　碩

秋風乃新を吹こそ鳴る波の音　水

鳴ゆく雁や白雲乃松　翁

名所旧跡乃霊地一角田　碩

巡礼死ぬる乃の、の事乃ふ　水

何なる定業の現をあらしなる　翁

文出すの中とさん　なるさ　碩

四羅天り我いとそれかち　水

熊野をみそ紀と注のひろ　翁

[illegible]紀所望の頌を　碩
酒でそけたるまれあるを面白さん　水
改六月をのこくまて書日つ　翁
假れ拂佛ゝよむ今仏　碩
中くゝ土間よ春こゝ桑屋　水
一面名ゝ置たゝ[illegible]　翁
時雨いゝ[illegible]濯乃わを爽　碩
身乗くゝ[illegible]明暮る月　水

花落あるを[illegible]けそゝ枯く　翁
唯四方なる草庵秋寒　碩
一貫れ銭もの、のを[illegible]ゝ　水
醫者乃ゝ[illegible]ゝ飲ぬ冬　翁
花候ゝゝ黄野あゝを迎　水
蛇ゝ[illegible]ゝ[illegible]の山中　碩

翁　十二
珎碩　十二

曲水十二

いろ〳〵乃名をむつらしやまちの名
ちらして懐中乃美はさらあぬる　翁
蝙蝠乃のゝ、うまつるをさ〻ぬ　路通
かゝる籠乃とをちめ作　越ち　仝
紫蘇の実を、つまずに今乃世書　碩
親ゐ　おゝしいく　月ま地ふ　仝

弥碩

秋のを宮もりをこの色ぞなりける　通
うゑをくれていとゝ仏　仝
うつゝ香乃雅誠を育ひきあさ　碩
小云ゝしし市かつらか　仝
艶弱乃ちいさくゆる川の塢　通
会俳よてはうむろのき　仝
うゝらゑし茶もうゑを未蕃　碩
立聖里乃夫るはわゝされ　仝

嫁婆雅を人乃嫗つれて　通
花をあのひよ月い雅和　仝
ちかのさす御の下を和日ゝ　碩
生鯛あくゝる浦ゝ云小　仝
し村のこ屋をふ醫ちかなゝ　荷兮
抜乃ちんをけりをのをゝ　越
かゝゝる喪紙退庵も堂る　兮
まゝ法ます酒乃ち抜ゝ　人

なゝ[illegible]る[illegible]乃[illegible]ゝ[illegible]ひろさ　兮

蕎麦さい白[illegible]　山[illegible]胴中　人

う[illegible]ん[illegible]墨乃[illegible]れの[illegible]　子

さ[illegible]つ[illegible]の[illegible]裸世　人

[illegible]つ[illegible]の[illegible]　兮

文珠の[illegible]も　槃特の愚癡　人

[illegible]ひ[illegible]味噌　兮

伊[illegible]る　弱棚　人

[illegible]乃[illegible]の木[illegible]ありて[illegible]　兮

[illegible]を[illegible]ぬ[illegible]して　仝

汗の香をかゝ[illegible]衣を[illegible]　人

[illegible]ちあり[illegible]ふる　仝

[illegible]百人[illegible]腑[illegible]　兮

[illegible]ハ猿[illegible]れ[illegible]る猿　仝

孫[illegible]九

[illegible]一

活通八
芦の今十
越人八

城下　野徑

鉄炮乃遠音に暮る外月か
瀬の小麦乃こやしの小貝拾ひけり　里東
雨風まぢかの小貝拾ひけり　泥土
なまぬる一川　鯛（モラ）ひとつ　乙州
暮いそうしこの人ふるる秋の風　怒誰
秋の蕎麦　殆もうもの部　珎碩

雪降花の綱手縄にかけてとられて　筆
同の中にたゝ見渡かたちある　野徑
今も又川面をたゝく岩へ　里東
新乃松の一すじ生つきや　泥土
馬より下駄をたゝやうて　乙州
一里こゝ持ちを　山乃下前　怒誰
見返りて宮居の延も笑しかな　泥土
抜れ出ハ湯面ゆゝしれと　里東

雪舟よ雲越の梅安ゝ寄さられ　野徑
寺を歩につゝく丁百ゝ銭　乙州
月花よ宮居をよろこぶ言ゝ　弥碩
蕨売ん乃姿ゝ見ゝ　昇蕨　怒誰
くゝ紅葉よ紅てよ新ゝすれす　里東
宵乳の道　ゝ坊ゝ　臣　もすす　弥碩
乃みに切ゝ長酒の荒の一　繰　乙州
古さゝちのゝ猪倉　野徑

時くさを百姓まても烏帽子
配所をはなれ給ふ 法御乃輪 怒誰
名ゆかしき 紙鳶 泥土
連も力をも 皆こゝ乃なり 弥碩
かゝ風乃 大悪寺縄を吹き 里東
畏乃こゝるに用ひてさ 野徑
棚閉さ 蕨をもちへさぎちゝ 乙州
日迄乃月乃 菜食 泥土
カギ
怒誰

着紙乃嚙よ 芋 はなさゝる 嚏乃形 里東
四十乃老乃 つゝ乃 際 弥碩
繁乃色に 枕乃 袋を 寝乃 乙州
醉を 細乃 あらて 吹く 野徑
牧村乃 花ハ 乃 乃 乃 怒誰
田乃 片間 苗乃 泥土

野徑 六
里東 六

泥土　六
乙州　六
怒誰　六
孫碩　五
筆　一

雜

龜乃甲高くして時に鳴き哀
唯半書くるに風乃ふく音
百姓乃末端結まいのきて
小竿ゆるかうしの縄
獨寂くく奥乃岡ひろき旅の
猫猫寂てくるゆる物

孫碩
呈東
探志
昌房
正秀

乙別

秋萩乃末ちるさ迄ゝ流
風吉ゝ加城乃山
雪乃やうなる
初元ゝ離の
ん乃てゝゝ
庵乃香に
寂て起て

及肩
野徑
二嘯
乙州
孫碩
里東
探志
曙

鳥啼

鶴入乃巾
まゝ上京
蓋ゝ盍鳥羽の
雀を
うゝ
神ゝ
浮て
撰

正秀
及肩
野徑
二嘯
乙州
孫碩
里東
探志

晴かるる茶煙乃下を立て　昌房
猶る を呼る 鶯よりは　正秀
いさるる 法 一篇に 狭霧　及肩
ゑ 波か 山 る 鯉 棚 乃秋　野径
はくくぬ 切 の 張 て 風 吹　二嘯
まか 乃 序 も みのく 家 月　乙州
冷 月 味 の つ く 長 焼 り 也　孤碩
様 抑 ち ん 次 よ あ く る　里東

問をぬ 沢 乗 の ゑ て 行 る あ け　探志
ゑ ま か ゑ ま ゑ 侍　昌房
長 ゑ 長 域 移 て 編 に は け　正秀
縄 を 生 る 寺 せ ん 上 談　及肩
花 乃 比 員 の 日 待 よ ぐ こ ろ で　野径
さ ら る 物 の 師 る の ま 凡　二嘯

乙州　四
孤碩　仝

里東　四
探志　仝
昌房　仝
正秀　仝
及肩　仝
野徑　仝
二嘯　仝

田野　正秀

鶯道や苗代時乃角大師
[illegible]　野鼠乃顔　孫碩
[illegible]　仝
かきの花　門口乃文字　秀
月朝よ　利休乃恋を鼻乃[illegible]　仝
度〳〵　芋を[illegible]　碩

出さ皆つ祇くかるやらむ　秀
忤足くの味覆しらぬる　碩
誓文を百も重ねて寄るる冥加　秀
なくくくくくくくくり　仕乃侍　碩
須广ふと抱ふ月面なる蓋面　秀
孤乃恐るる乃かまるやる　碩
月氷る師走の空の銀河　秀
世理み恐る脇も進ま　碩

つめかくて大脇指を抜くれて　秀
猶ある子も緒(チヨ)を結(ホ)ぶ暮れ　碩
江戸酒を花咲に売るうわ　秀
あい乃山　蟬(ヒヨ)まち乃入の色　仝
雲雀　帰　里を厩(ヒヨ)巣かき蓋　碩
火を吹くある禅門の祖父　秀
本堂ハあと荒壁乃ら絶　碩
羅漢形　秋ある寺ひぬ　秀

歯を痛人乃ゆをを結ふ　碩
ゆ[illegible]　秀
藤垣乃宮ふ紙屋を捜をき　碩
口上果ぬいふさきの時宜　秀
毎かわしふ小判ふ[illegible]る葉稀　碩
秋入初る　肥　後　隈本　秀
幾日経も紙屋て用ふる後ふ新　碩
寸布ふひとふ　[illegible]ふ　秀

沢山ふ元めゝく吃らしく　碩
呼あふ[illegible]も猫ふ[illegible]ふ　秀
ふ紙は小人哥乃雨あふ　碩
やしほの楓木の芽蘭立　秀
蕨花ふ雪踏枕つる[illegible]あり　碩
小野ゝ[illegible]る場に[illegible]ふ　秀

正秀　十九
跡碩　十七